

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	・考える力 考える習慣を身に付け、公正な判断のできる人 ・美しい心 自分をみがき、他人を尊重できる人 ・健康 素直な心を持ち、心身共に健康な人	
学校経営方針 (ランドデザイン)	開校53年目 令和7年度 綾瀬市立綾北中学校 グランドデザイン Ryohoku Junior High School Grand Design 綾瀬市の基本目標 人を思いやり、社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども 目指す学校像 活気があり、地域から信頼される学校 学校教育目標 Educational goal of the school 考える力 考える習慣を身に付け、公正な判断のできる人 美しい心 自分をみがき、他人を尊重できる人 健康 素直な心を持ち、心身共に健康な人 指導の重点 確かな学力の育成 学習する生徒のための授業づくりに努め、学び方を身に付けた生徒を育てる ◎共に学び共に育つ授業の実践 ◎校内研究の活性化 ◎基礎・基本の定着 ◎家庭学習の奨励 授業に主体的に取り組んでいる生徒が80% 心豊かな生徒の育成 一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる ◎互いの個性を尊重し、他者と協働する力の育成 ◎「考え、議論する」道徳授業の実践 ◎元気でさわやかなあじさつ館の励行 OSC、SSWや外部機関との積極的な連携 楽しく登校できている生徒が85% 健やかな心身の育成 健やかな心身を育み、心とからだをコントロールできる生徒を育てる ◎基本的生活習慣の定着 ◎学級活動、生徒会活動の活性化 ◎体育祭、合唱祭の活性化 ◎安全で清潔な環境の整備 学校行事や部活動に積極的に参加している生徒が85% ともに育てる学校づくり 学校の情報の発信に努め、保護者や地域とともに生徒を育てる ◎保護者との信頼関係の深化 ◎学年 学校 保護者などの発信 ◎PTAや地域人材の活用 ◎小学校との交流と連携 学校の情報がわかりやすく伝えられているという保護者が85% 共育 To provide education together 保護者とともに PTA 小学校とともに 綾瀬市型小中一貫教育 地域とともに あやせコミュニティ・スクール 綾北中学校区＝小学校（天台・寺尾・綾瀬・綾北）との連携、指導の継続 目指す教員の姿勢 ◎「何を学ぶか」がわかる授業づくりに努め、学び方を身に付けさせる教師 ◎生徒に、愛惜と厳しさを持って公平に接し、共感的態度で指導に当たる教師 ◎組織の一員として協働し、主体的に学校運営に関わろうとする教師 ◎役割関係を守り、地域の期待に応える教師 授業の共通理解事項（教員の心得） 1. 始業チャイム前に教室にいます。 2. 授業の始まりは、生徒と共に起立して「お静かにします。」のあいさつをします。 3. 本時の学習内容を明示します。 4. 本時の振り返りを行います。 5. 時間内に生徒の巻物を渡します。	
今年度の重点目標	・学習する生徒のための授業づくりに努め、学び方を身に付けた生徒を育てる ・一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる ・健やかな心身を育み、心とからだをコントロールできる生徒を育てる ・学校の情報の発信に努め、保護者や地域とともに生徒を育てる	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「考える力」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	学習意欲については、生徒・保護者ともにどの学年でも肯定的な評価が多くなっています。今後も「学び方を身に付けた生徒」を育成するために、生きて働く「知識・技能」の習得と未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成や、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」等、3つの柱を、相互に関連を図りながら身に付けさせていくとともに、学び合う学習活動や家庭学習等を充実させ、あらゆる教育活動を通して育成を図るよう努めていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や部活動に積極的に参加している。	今年度は、体育祭と合唱祭の時期を入れ替えた行事の実施となりましたが、計画的に運営することができました。アンケートでも生徒の約9割以上が意欲的に取り組んでいるという結果でした。本年度の体育祭は、雨の為に平日開催となったにも拘わらず、多数の保護者にご参観いただき、生徒の様子やたより等から生徒の意欲的な取り組みが伝わっているように思われます。今後も行事だけでなく、生徒が主体となって学校生活を作り上げていく取組を大切に、その過程を達成感に繋げていくことで活動を充実させていくことを目指します。
3 児童・生徒指導	学校は、「美しい心」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒のアンケート結果から、約9割の生徒は、友人と良好な関係をつくる努力をしていることがわかります。保護者のアンケート結果からも、生徒の友人関係を肯定的に捉えていることが伺えます。学習指導、生活指導をはじめ学校生活のあらゆる場面を通じ、双方向のコミュニケーションを大切にして、今後もより良い関係づくりに努めます。また、教職員に対しては道徳の研修を充実させるとともに、道徳の授業をはじめとして生活の中で互いを認めあったり生徒一人ひとりを勇気づける言葉かけをしたりして、心豊かな活力のある生徒の育成に努めていきます。

4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	アンケート結果から、9割近い生徒が、「楽しく登校できている」と肯定的な回答をしています。今後も「スクールアンケート」などを活用して、不安や不満を抱える生徒の早期発見、早期解決に向けて努めていきます。年2回の生活相談は、生徒と担任の信頼関係づくりと、生徒それぞれが持つ課題への助言ができる機会となっています。今後も教職員一同、日頃から生徒との関わりを大切に、学習や人間関係のつまずきを早期解決できるよう努めていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のために取り組んでいる。	アンケート結果は、教職員と保護者ともに、おおむね肯定的な回答となりました。引き続き、いじめの早期発見・再発防止に向けての取り組みを保護者に十分に周知し、理解を得られるよう、努めていきたいと思っています。すべての生徒が、安心・安全な学校生活を送ることができるよう、今後も学年や学校全体での情報交換体制を充実し、いじめ防止等対策委員会を中心に、早期解決に向けた組織的な対応に取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は、「健康(素直な心を持ち、心身ともに健康な人)」を育てる指導を積極的に行っている。	アンケート結果では、約7割のご家庭・生徒から、生徒が「健康や体力に関心をもって生活している」との回答が得られました。しかし、あまり関心をもっていないという回答もあり、教職員との意識の隔たりが伺えます。今後も、日々のけがや体調不良、心の健康にも留意し、職員同士また保護者との連携を大切にして生徒の心身の健康や安全の確保に努めていきます。また、定期健康診断の結果について各家庭と情報共有を図ることで、生徒の健康管理に努めます。さらに、食育や保健指導を通して、生徒自身が自分の心身の健康に関心を持ち、セルフコントロールできる力を育てていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今後もPTA校外委員会と連携して下校指導をすることで、登下校時の問題点を把握することに努めます。また、学校運営協議会とも連携し、地域の力を借りて校外における安全対策を実施していきたいと考えています。保護者に対しては、地域に出没する不審者等を見かけた場合は、すぐに警察に通報するとともに学校にも連絡を入れるよう依頼をし、校内でのより迅速な対応に努めていきます。また、校舎施設設備の点検と安全管理体制の強化に努めます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	さまざまな教育的ニーズをもつ生徒に対して、個別の支援体制の充実を図るとともに、学校全体で支援教育に対する意識の向上、支援体制の充実をめざして、今度も取り組んでいきます。支援教育に関する学校の取り組みや情報を保護者へ発信し、家庭と学校が相互に理解を深め、協力していけるよう努めていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	校長のグランドデザインをもとに管理職や総括教諭、学年代表を中心として、企画会議、学年会、グループ会議等を活性化し学校運営を目指します。各グループでは、PDCAのマネジメントサイクルを効果的に実施していくことで学校教育目標の達成を目指して努力していきます。さらに、教員一人ひとりの負担が軽減できるように適切な業務分業と精選を図るとともに、勤務時間内で仕事が終わるように働き方改革を意識した学校組織づくりを行います。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるために力を入れて取り組んでいる。	本校では、グループワークやタブレット端末の活用を取り入れた、生徒が主体的に学びに向かう授業を展開し、生徒の学習意欲を高めるために、全教員で組織的に授業研究に取り組んでいます。今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善をするために、単元構想を軸とした授業の在り方や、ペアやグループでの意見交流活性化への工夫、ICTの活用、指導と評価の一体化等に研究を重ね、更なる授業改善を推進していきます。また、教職員一人ひとりの資質向上と学校の組織力を向上させるためにも、外部講師による研修会や授業参観などを通したOJTを大切にしていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	「学校教育目標」や「指導の重点」にあるように、学校は生徒のよりよい成長を目指した教育活動を行っています。保護者へのアンケート結果から「よく知っている」「知っている」を合わせた回答が約3割であり、学校教育目標が十分に保護者へ伝わっていない現状が伺えます。今後は、より一層、入学式や保護者会での説明、学校だより等での掲載、校内廊下や階段に掲示する等、多くの方の目に触れるよう工夫をし、広報活動を進めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取り組みを行っている。	保護者へのアンケート結果からは「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて9割の回答を得ています。この背景としては、C4th Home&Schoolやスクリレの効果が大きいと考えられます。なお、どちらにおいても、加入保護者数は1月現在で学校全体の9割ほどとなっており、最新の情報が多くの保護者に伝わりやすくなっています。また、学校だよりや学年通信などが保護者の手元まで届くように配付物用ファイルの活用をしたり、PTAと協力して体育祭等の様子が保護者に伝えられるように広報誌を作成したりする取り組みを行った成果と考えます。さらには、学校だよりに学年通信の発行済み号数を掲載したり、懇談会や面談等で学校の様子を伝えたりする等の工夫も重ねています。また、学校運営協議会については、開催日時や議題等を学校だよりやホームページにて通知しています。今後も、積極的に生徒の学校生活や授業中の様子を伝え、様々な場面で保護者と連携した取り組みを考え、地域にも発信していけるようにしていきたいと思っています。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 「学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取り組みを行っている」において、学校教育目標が保護者の3割程度にしか例年伝わっていないことが話題になった。学校側としては日々の教育活動の根幹をなすもので、学校・保護者が共通理解のもと指導にあたることで生徒にとって大変効果的で、意義があると伝えた。今後の改善策としては掲示を通した見せる工夫だけでなく、音で伝える機会を増やすことで記憶に残す工夫をしてはどうかという話が挙がった。また「学校は、いじめの早期発見・再発防止のために取り組んでいる」について、保護者の3割近くがあまり思わないと感じていることが話題になった。日々の面談やスクールアンケートなどの活動があまり伝わっていないのではないかとのことだった。今後も生徒に寄り添いサポートしていく中で、保護者にもその中でわかったことや感じたことを共有し、協力体制をさらに強化していくことを確認した。今年度も日本語サポートボランティアや自治会と連携して運動会のサポートを部活動で行うことができた。またソーイングボランティアについては昨年度から継続して行うことができた。学校と地域が互いにメリットとなる活動を今後も継続し、持続可能な取り組みを模索していきたい。		